

歯周病と糖尿病

糖尿病とはどんな病気？

糖尿病とは、膵臓から分泌されるインスリンが何らかの原因で不足し、体内の栄養の代謝が正常に行われず、血液中のブドウ糖が適正範囲を超えた状態が持続することによって生じる一連の症候群です。そして慢性的な高血糖になると、動脈硬化や“3大合併症”と言われる「網膜症(失明)」「腎臓の障害」「神経障害(手足のしびれ・壊死)」などを引き起こしてしまいます。

糖尿病には自己免疫疾患である「1型糖尿病」と、生活習慣病が深く関連し、もっとも頻度の高い「2型糖尿病」があります。

2型糖尿病は歯周病や高血圧などと同様に、自覚症状がほとんどなく、気付いたときには重症化していることが多く、合併症によりQOLを著しく低下させる疾患です。

歯周病とは？

歯周病とは、歯肉と歯の付着機構が破壊され、そこにバイオフィームが付着してさまざまな症状を引き起こす疾患です。バイオフィームのなかの歯周病関連細菌や、免疫反応、サイトカインや噛み合わせの異常など、いくつかの原因によって、慢性的な感染を発生させてしまいます。

歯周病と糖尿病の関係は？

2型糖尿病と歯周炎の共通点は、「遺伝する傾向が強くみられる」という点です。しかし、いずれも一種類の遺伝子の情報ミスで症状が出る病気ではなく、多因子性疾患であると考えられています。また、糖尿病を併発している歯周病患者では歯周病が増悪しているという事実から、歯周病は、糖尿病の6番目の合併症であることが提唱されるようになっています。

歯周組織の炎症部分からは、「炎症性サイトカイン(TNF- α 、IL-1 β)」が産出され、歯周組織の破壊にもっとも関連していますが、同時にインスリンの働きをも低下させることがわかっています。この物質(TNF- α 、IL-1 β)は、内臓脂肪からも産出が確認されていますので、肥満、糖尿病、歯周病が相互に影響しあっているといえます。

今回は「歯周病治療の糖尿病への効果」です。